

令和4（2022）年度

地域学校協働活動推進員養成研修② 実施報告

実施日：令和4（2022）年7月13日（水）

本研修は、「頑張る学校・地域！応援プロジェクト」事業の一環として行われます。地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施されます。

第2回は、活動づくりを進めるために必要なファシリテーションの知識とスキルを身につけることをねらいとして研修を行いました。

講話・演習

「協働活動の質を高めるための話し合い～ファシリテーションスキルを高めよう～」

宇都宮大学 地域デザイン科学部 准教授 石井 大一郎 氏

石井氏は、宇都宮大学において、地域創生推進機構地域デザインセンターの副センター長を務められ、「まちづくり論」や「NPO論」、「地域プロジェクト演習」などの授業を担当されています。また、栃木県教育委員会ふれあい学習推進委員会委員長や栃木県社会貢献活動促進懇談会委員等も務められています。

今回は1日を通しての講話・演習でしたが、自らの御経験も交えながら、分かりやすく進めていただきました。



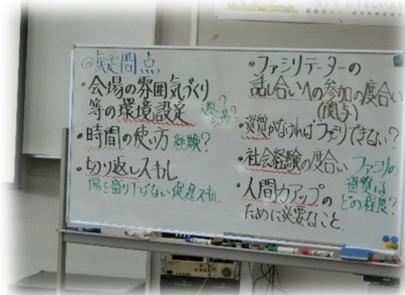
最初に、コーディネーターとして、学校での教育課題（学校の教育力の向上）だけでなく、地域課題（地域の教育力の向上）まで視野に入れておく必要性にふれ、自身の経験に基づいて、活動を進めていく上で話し合うことの大切さとファシリテーションの重要性について話されました。受講者の実際の活動につながるトピックで、納得感のある学びとなりました。

次に、「上手なファシリテーター」とはどのような人なのか考えるグループワークを行いました。受講者は、ワークを通してファシリテーターとして必要な要素に気づくことができたようです。まとめとして、身につけたファシリテーションスキルを活用し、自分の関わる話し合いの場を変えていくことこそが重要であると受講者に話されました。

最後に、ファシリテーションの機能や役割、コミュニケーションの技術を確認しました。その後、これまでに学んだファシリテーションの知識やスキルを生かしていくために、今後どのようなことを心がけていくか、受講者それぞれの思いや考えを共有しました。

話し合いの場が変わることにより、地域学校協働活動がより充実し、活動に関わる方々の当事者意識にも変容が生まれるといいですね。





【受講者の感想から】

- 全員が発言できて、否定せず尊重する大切さを学びました。
- 他の人のよいところに目を向けて、ほめることを意識していきたいと思いました。
- 振り返り時には、意見等を復唱し、自分が使いやすい、相手に伝わりやすい言葉で伝え、話しやすい雰囲気をつくっていただけたいと思います。
- 相手のことを知る、知ろうとすることを大切にしたいと思います。



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp